

廃藩置県以後の旧城下町弘前における都市構造の変容

－旧侍屋敷地域を中心に－

根 本 修 匡

I. はじめに

1. 研究の動機

わが国では主要都市の多くが江戸時代の城下町を起源としている。弘前も江戸時代の城下町を起源としており、その名残は現在の町名にもみられる。弘前の現在の都市地域構造が旧城下町構造とどのように関係しているのか、またどのように変容してきたのかについて興味をもち、卒業論文のテーマにしようと考えた。

弘前の城下町時代から現在に至るまでの変容に関する全体的な研究に関しては、横尾実（1987）などがある。そこで、筆者は旧城下町構造のなかでも明治維新以後大きな変容がみられた旧侍屋敷地域を対象にして研究を発展させていきたいと考えた。

2. 研究の目的

旧城下町弘前の侍屋敷地域における廃藩置県以後の変容について、あきらかにすること。

3. 研究対象地域

研究対象地域である武士屋敷地域は現在の町名において以下のとおりである。

上級武士屋敷地域

蔵主町、大浦町、元寺町、元大工町、下白銀町、元長町、上白銀町

中級武士屋敷地域

春日町、若党町、馬喰町、亀甲町、長坂町、笹森町、百石町、相良町、在府町、馬屋町

下級武士屋敷地域

小人町、茶畑町、南横町、萱町、緑町、徳田町、北柳町、南柳町、坂本町、植田町、代官町、徒町、田代町、北瓦ケ町、中瓦ケ町、上瓦ケ町、山道町、品川町、五十石町、鷹匠町

II. 旧城下町弘前における廃藩置県以後の都市構造の変容

1610年、津軽氏は城下町弘前の本格的な建設を開始し、領内各地から家臣団、商工業者および社寺を移転させた。それらは、身分・職業別による町割りによって計画的に配置された。

町割りは、参勤道の羽州街道への変更や、武家屋敷町の郭外への排出などによって変更がおこなわれた。したがって、廃藩置県以後の旧侍屋敷地域の変容に関する考察を目的とする本研究では、幕末の弘前における都市構造を、江戸時代の城下町構造として扱う。

武士の居住地区は、城郭を中心として禄高に応じた屋敷割によって分布している。商人町は、

城下からのびる街道沿いに分布しており、そのなかで、大手前（現在の本町）が商業中心となった。職人町は、現在の紺屋町や袋町、西大工町、鍛冶町、桶屋町、銅屋町に分布した。寺社地は、城下町の縁辺に分布した。

明治維新以後、城の防衛の見地から計画的に形成された城下町構造は意味を失い、都市構造は、商業中心と行政中心を都心として変容を始める。

商業中心は、旧城下町時代の商業中心を受け継ぐ。

旧城下町の上級武士屋敷地域や中級武士屋敷地域では士族離散の結果、空屋敷が生じた。上級・中級武士屋敷の跡地では、おおきな敷地を利用して、学校が創立した。また、旧城下町の上級・中級武士屋敷地域のうち商業中心に隣接する地区に官公署が新設され、行政中心となった。下級武士屋敷地域は、基本的にそのまま残った、下級武士は江戸時代から機織、養蚕、菅笠編みなどの内職をもち失禄による衝撃を緩和できたからである。

旧城下町の職人居住地域や中級・下級武士屋敷地域のうち、商業中心に隣接する地区では、商・工・住機能が混在する地域となった。

1894年に奥羽線が開通し、1896年に第八師団が設置されると、商業中心が本町付近から土手町付近へ移動した。これは、旧商業中心から銀行が移転したことや、市内外から有力商人も進出して百貨店や呉服店などを開いたことによる。

商業中心の移動によって、あらたに商業中心と隣接するようになった旧下級武士屋敷地域で、商・工・住機能が混在する地域となった。

弘前の人口は1930年代以降増加を始める。鉄道、師団および教育機関が開設され、また周辺農村から産出されるりんごの集散活動が拡大したためである。その人口の増加を吸収したのは、上級・中級武士屋敷地域であった。広い敷地を分割し、家屋の建築が進められた。都心である商業中心から遠い、旧下級武士屋敷地域では、家屋の新築は少なく、屋敷割もほぼ江戸期のままである。

第2次世界大戦後、弘前―大鰐間に鉄道が開通すると、そのターミナル駅の設置に刺激を受けて、鍛冶町など旧職人町には飲食店や娯楽施設が集中し歓楽地区となった。土洺川谷底で長期間旧職人町の特徴を受け継いできた地域は崩壊し、都心との距離に応じて商・工の混在する地域と住宅の卓越する地域に分かれていった。

1960年以降、弘前の都市地域は拡大した。都心商店街は土洺川を越えて鉄道駅方向に拡張した。大都市資本などによる大型小売店が進出し、駅前には、バス・ターミナルも出現して商店街を刺激した。岩木川近くの旧職人町を受け継いできた地域は、生産者の減退によって住宅地域となった。

Ⅲ．旧侍屋敷地域における廃藩置県以後の変容についての考察

上級，中級，下級武士屋敷地域に起きた変容を，それぞれA．城下町時代の単位地区の性格が存続する地区，B．城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区，C．城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区の3タイプに分類し，その要因について考察をおこなう。

1．上級武士屋敷地域における変容についての考察

上級武士屋敷地域の特徴は，城郭の外圍にあり，一筆あたりの面積がおおきいことである。上級武士屋敷地域には現在，行政，司法，教育に関する公共施設がおおく存在する。それらの施設には，おおきな敷地が必要とされるため，一筆あたりおおきな面積をもち，明治維新以後空地となった上級武士屋敷の跡地が利用された。上述したような公共施設の建設に利用されなかった上級武士屋敷の跡地は，果樹園や空地となり1930年以降の人口増加にともない，分割され宅地となった。商業中心に近い地区では，商業地区や商・工・住混在地域となった。

A．城下町時代の単位地区の性格が存続する地区

上級武士屋敷地域において，城下町時代の単位地区の性格が存続する地区は，武士屋敷地区の機能である住居機能が卓越している地区である。上級武士屋敷地域では，土族離散の結果，多くの空屋敷が生じた。また，畑となる地区もあった。しかし，1930年代以降の弘前の増加人口を吸収し，かつての広い敷地を分割して家屋建築が進められて，ふたたび住宅機能が卓越した地区が，上級武士屋敷地域において，城下町時代の単位地区の性格が存続する地区にあたる。

B．城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区

上級武士屋敷地域において，城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区は，上級武士屋敷の特徴である広い敷地を利用して，学校や官公署公共施設がつくられた地区である。

上級武士屋敷地域の一部が裁判所となっており，また，官公署や学校が設置されている。これは，住宅地区としての機能から，行政や教育といった公共施設へと性格は変化しているが，一筆あたりの面積が大きいという上級武士屋敷地域の性格と関係して成立した地区といえる。

C．城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区

上級武士屋敷地域において，城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区は，商業中心に隣接する，元長町や元寺町などの一部である。それらの地区では，商業中心から商業機能の影響をうけ，商店を主とする商・工・住混在地域となっている。

2．中級武士屋敷地域における変容についての考察

中級武士屋敷地域の特徴は，上級武士屋敷地域の外圍にあり，一筆あたりの面積が比較のおおきいことである。中級武士屋敷地域には現在，医療，教育に関する公共施設が多く存在する。医療，教育に関する公共施設は，一筆あたりの面積が比較的大きかった中級武士屋敷の跡地が利用された。1930年代以降の人口増加を吸収した地区もある。商業中心に近い地区は商・工・住地区となった。

中級武士屋敷地域は、比較的密度の低い住宅地区であった。現在、江戸時代における中級武士屋敷地域は、医療、教育に関する公共施設地区や江戸時代と比較すると密度が高くなった住宅地区、商・工・住混在地域となっている。

A. 城下町時代の単位地区の性格が存続する地区

中級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格が存続する地区は、武士屋敷地区の機能である住居機能が卓越している地区である。中級武士屋敷地域においても、上級武士屋敷地域と同じように、士族離散の結果空屋敷が生じた。そうした地域で、上級武士屋敷地域と同じように、増加人口を吸収し、ふたたび住宅機能が卓越した地区が、中級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格が存続する地区にあたる。

B. 城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区

中級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区は、上級武士屋敷ほどではないにしても、広い敷地を利用して、学校がつくられた地区である。

C. 城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区

中級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区は、商業中心から商業機能の影響をうけて商店を主とする商・工・住混在地域に変容した地区である。

3. 下級武士屋敷地域における変容についての考察

下級武士屋敷地域の特徴は、城下町の縁辺にあり、一筆あたりの面積がちいさいことである。下級武士屋敷地域には現在、密度の高い住宅地区や団地などの集合住宅が存在する。密度の高い住宅地区では、江戸時代の区画を受け継ぐ宅地も多い。

江戸時代における下級武士屋敷地域は、その範囲の大部分が現在も密度の高い住宅地区として江戸時代からその機能が続いている。1930年代以降の人口増加の影響を受けて、住宅が稠密化した地区では、集合住宅が建設された。商業中心や、大通りに面する地区は、商・工・住混在地区となった。

A. 城下町時代の単位地区の性格が存続する地区

下級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格が存続する地区は、城下町時代から変わらず住宅機能を維持し続けている地区である。下級武士屋敷地域のなかでも商業中心や鉄道駅から遠い城下北部や西部の地区が、城下町時代の単位地区の性格が存続する地区にあたる。

B. 城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区

下級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格と関係して成立した地区は、旧城下町の縁辺の地区で、住宅の稠密化により、家屋が撤廃され市営住宅となった地区である。

C. 城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区

下級武士屋敷地域において、城下町時代の単位地区の性格と関係なく成立した地区は、商業中心に隣接し、商業中心商業機能の影響を受けて商・工・住混在地域に変容した地区である。

IV. まとめ

本研究では、旧城下町弘前の侍屋敷地域における廃藩置県以後の変容について、考察をおこなった。

旧城下町弘前の侍屋敷地域における廃藩置県以後の変容の要因には、旧城下町全域の変容に共通するものと、侍屋敷地域の変容のみに関わる要因があった。侍屋敷地域の変容のみに関わる要因とは、屋敷の広さや、失祿による衝撃にかなりの差があったことである。また、旧城下町の範囲内で大部分を占め、広く分布していたため、都心からの影響にかなりの差がでている。このような要因があったため、他地域に比べ、侍屋敷地域にはおおきな変容がみられたのである。

【参考文献】

長谷川成一（1986）：『弘前城下史料 上』

長谷川成一（1986）：『弘前城下史料 下』

横尾 実（1987）：弘前市の都市構造への歴史的制約．東北地理，39，302-315.

横尾 実（2000）：東北地方の城下町起源都市における地域構造の移行－江戸時代から第2次世界大戦時まで－．季刊地理学，52，17-34.

横尾 実（2002）：東北地方の城下町起源都市における地域構造の歴史的形成様式－1945年から1990年代－．季刊地理学，54，201-219.

新編弘前市史編集委員会（1997）：『新編 弘前市史 史料編4（近・現代1）』

新編弘前市史編集委員会（2005）：『新編 弘前市史 通史編4（近・現代1）』